

● まとめ

今回の実験で、微酸性次亜塩素酸水 (pH5.5、有効塩素濃度 40ppm) は前回の強酸性次亜塩素酸水に引き続き(つまり強酸性の次亜塩素酸水)、新型コロナウイルスに対する強力な不活化効果があることが実証された。

政府系の独立行政法人製品評価技術基盤機構「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」は 2020 年 5 月 28 日、中間報告を発表しその中で、実証実験を担当した二つの研究所の実験結果に必ずしも一貫性がないことから、引き続き検証試験を継続すべきであると結論付けている。

消毒用アルコールなどがひっばくしている現状において、強酸性 (pH2.7 未満) だけでなく微酸性 (pH5.5) の次亜塩素酸水が新型コロナウイルスに対して有効と判断されたことの意義は非常に大きい。すなわちアルコールの代替品ではない、独立したより安全な消毒剤としての次亜塩素酸水の有効活用は新型コロナウイルス感染症予防対策に大きく寄与することが期待できる。

次亜塩素酸水(強酸性 pH2.7 未満および微酸性 pH5.5) は、比較的容易に入手可能な生成装置から吐水され、食品や物品等の消毒の他に、
「手洗いに有効な資材」としても推奨できます。

私たちは新型コロナウイルス感染症の予防対策のために、次亜塩素酸水の有効利用を引き続きより積極的に検討していく所存です。

●連絡先 玉城 英彦(たましろ ひでひこ)
北海道大学名誉教授
札幌市北区北 17 条西 8 丁目
Mail. tamashiro@med.hokudai.ac.jp